

神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

第 159 号

(2006年 2月)

平成 18年 4月 26日発行

特集：2005/2006年インフルエンザシーズンの流行状況

- ・流行規模は中程度
- ・流行株は A(H1)型と A(H3)型
- ・夏でもインフルエンザ？

ヒト由来細菌情報

医療機関からの患者発生届に伴う関係者調査を実施し、病原大腸菌、腸管凝集接着性大腸菌が検出された。

定点医療機関からの検体検査で A 群溶血レンサ球菌が検出された。

定点医療機関からの検体検査でマイコプラズマ ニューモニエが検出された。

食品由来細菌情報

病原菌は検出されなかった。

環境由来細菌情報

県内定点 10ヶ所の河川水調査で、O1&O139 以外のコレラ菌、サルモネラが検出された。

浴槽水の検査でレジオネラ ニューモフィラ、その他のレジオネラ属菌が検出された。

結核 QFT 検査情報

平成 18年 2月は、47 件の検査依頼があり、陽性例 2 件、判定保留 7 件が検出された。

集団発生情報

○ 県域での発生

(細菌)

- ・発生はなかった。

(ウイルス)

- ・食中毒様胃腸炎の発生は 3 事例あり、ノロウイルスが検出された。
- ・感染性胃腸炎の発生は 1 事例あり、ノロウイルスが検出された。

○ 県域外発生関連調査

- ・他の自治体で発生した食中毒様胃腸炎 1 事例の検査依頼があり、ノロウイルスが検出された。

ウイルス情報

○検査定点からの依頼によるもの

2 月に採取された検体から検出されたウイルスは、インフルエンザウイルス A(H1)型が 19、インフルエンザウイルス A(H3)型が 35、パラインフルエンザウイルス 1 型が 1、RS ウイルスが 1、アデノウイルス 2 型が 1、同 3 型が 2、同 4 型が 1、ムンプスウイルスが 1 およびノロウイルスが 2 であった。

(微生物部・地域調査部)

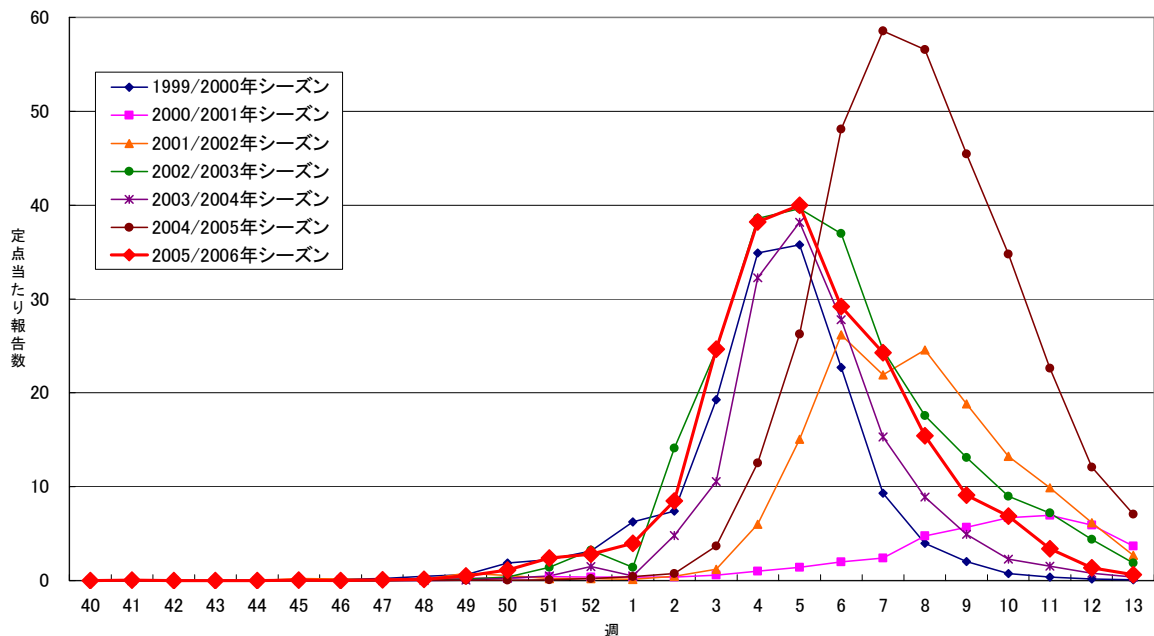
特 集

2005/2006 年インフルエンザシーズンの流行状況

【流行規模は中程度】

2005/2006 年のインフルエンザシーズンは、県域（横浜、川崎を除く）では例年よりも早く 2005 年第 41 週（10/10～16）にシーズン最初の患者発生報告がありました。その後 12 月に入るまでは報告数の増加傾向はみられませんでした。第 48 週（11/28～12/4）以降報告数が徐々に増加し、2006 年第 3 週（1/16～22）に注意報（定点当たり報告数 10.00）、第 4 週（1/23～29）に警報（定点当たり報告数 30.00）の基準値を超えました。患者発生のピークは、第 5 週（1/30～2/5）で定点当たり報告数は 39.99、その後は流行が再燃することなく、終息にむかいました。大流行となった昨シーズンに比べて、流行開始時期は早かったのですが、流行規模（累積報告数）は約 2/3 であり、中規模流行となりました（図 1）。

図1 インフルエンザ患者数の推移

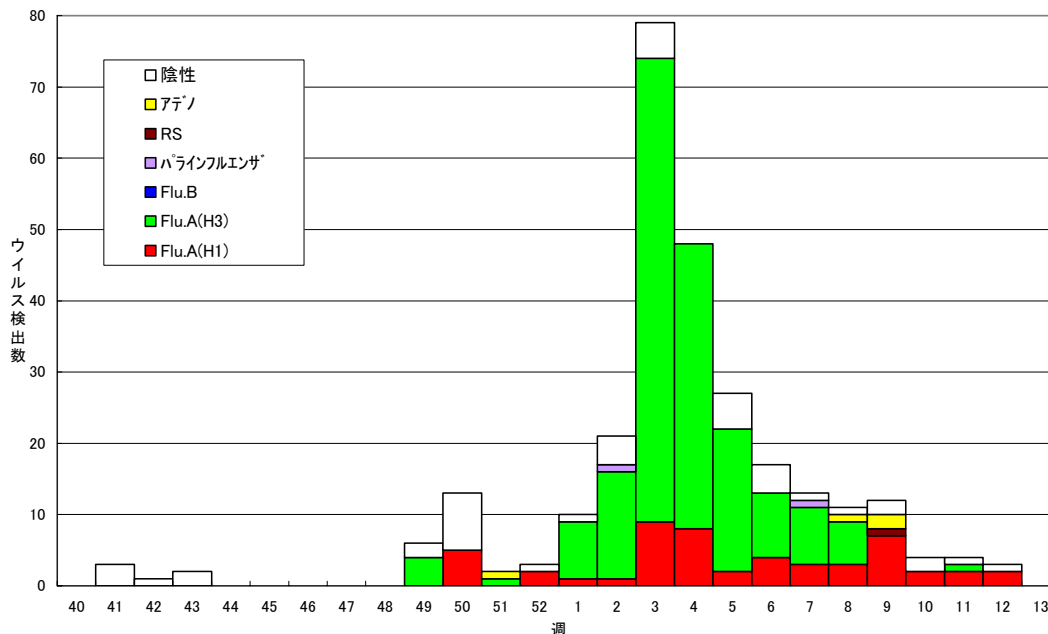


【流行株は A(H1) 型と A(H3) 型】

感染症発生動向調査および集団かぜ調査で採取された患者検体について検査を行いました。2005 年第 41～43 週（10/10～29）のインフルエンザ様患者からはウイルスは検出されませんでした。第 49 週（12/5～11）に発生した県域初発集団かぜ患者からインフルエンザ A(H3)型ウイルスが、続く第 50 週（12/12～18）には、別集団の患者からインフルエンザ A(H1)型ウイルスが分離され、流行当初から A(H1)型と A(H3)型との混合流行となりました。県域の集団かぜ 10 集団のうち、2 集団が A(H1)型、7 集団が A(H3)型、1 集団からはインフルエンザウイルスは検出されませんでした。ウイルス分離および遺伝子検出（PCR 法）によるインフルエンザウイルス検出数は、A(H1)型が 51、A(H3)型が 177、インフルエンザ以外のウイルス検出数は 7 でした。A(H1)型の流行は県域では 4 シーズンぶりでしたが、ウ

ウイルス検出割合からみると、圧倒的に A(H3)型が優位の流行でした。しかし、流行終盤の第 9～12 週 (2/27～3/26) には、A(H1)型の方が優位に検出されました。なお、B 型は検出されませんでした (図 2)。

図2 インフルエンザ様疾患からのウイルス検出状況



【夏でもインフルエンザ？】

温帯地域ではインフルエンザは冬季に流行するので、北半球の日本では 12～3 月頃、南半球のオーストラリア、ニュージーランドでは、7～10 月頃が流行期となります。タイなどの熱帯・亜熱帯地域では、雨季 (5～9 月頃) になると患者数が増える傾向にあります。このように、日本の流行時期が終わっても、他の国々ではインフルエンザウイルスが流行中ということもあるのです。本県でも、夏休み期間中の海外旅行者 (オーストラリア) からインフルエンザウイルスが分離された例があります。また、ここ数年、東南アジアを中心に高病原性鳥インフルエンザが流行し、ヨーロッパ、アフリカへも拡大するなか、人への感染も確認されています。これからゴールデンウィークや夏休みに海外旅行をする人が増え、渡航先からウイルスを持って帰る可能性もあるため、流行期だけでなく非流行期も含め年間を通して調査を実施しています。

(エイズ・インフルエンザウイルスグループ 渡邊寿美)

表1 ヒト由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別)—平成18年2月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	290	237	328	692	130	56	221	148	36	208	94	2440	29	2469
海外渡航者数														
病原大腸菌													3	3
その他の下痢原性大腸菌													4	4
A群溶血レンサ球菌													4	4
マイコプラズマ ニューモニエ													1	1

ヒト由来の検体2469件を検査した。

定点医療機関より依頼のあった感染性胃腸炎患者便18件について検査したところ病原大腸菌3件(血清型O1、*stx*遺伝子非保有)、腸管凝集接着性大腸菌4件(血清型O111:1件、型別不能3件、いずれも*stx*遺伝子非保有、*aggR*遺伝子保有)が検出された。

定点医療機関より依頼のあったA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者検体からA群溶血レンサ球菌4件(血清型T1、T3、T4、T28)が検出された。

定点医療機関より依頼のあった咽頭ぬぐい液からマイコプラズマ ニューモニエが1件検出された。

表2 食品由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別)—平成18年2月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数				4	10							14		14

食品由来の検体14件を検査したところ病原菌は検出されなかった。

表3 環境由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別)—平成18年2月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数		10		18						5		33	10	43
サルモネラ O4群													2	2
サルモネラ O9群													3	3
O1&O139以外コレラ菌													1	1
レジオネラ ニューモフィラ 1群				2						1		3		3
レジオネラ ニューモフィラ 2群				1								1		1
レジオネラ ニューモフィラ 3群				1								1		1
レジオネラ ニューモフィラ 5群				2								2		2
レジオネラ ニューモフィラ 6群				2								2		2
レジオネラ 上記以外										1		1		1

県内定点10カ所の河川水腸管系病原菌調査を行ったところ、O1&O139以外のコレラ菌1件、サルモネラO4群2件(血清型Agona、Derby)、サルモネラO9群3件(血清型Enteritidis:2件、Blegdam:1件)が検出された。

小田原保健所で12件の浴槽水検査を行ったところレジオネラ ニューモフィラ4件(血清型1群:1件、1群、2群、3群同時検出:1件、5群、6群同時検出:2件)が検出された。

足柄上保健所で浴槽水、冷却塔水等5件の検査を行ったところレジオネラ ニューモフィラ(血清型1群)1件、その他のレジオネラ属菌1件が検出された。

表4 結核QFT検査実施状況 —平成18年2月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	合計
取り扱い検査件数					17		27			3		47
陽性 (+)					2		0			0		2
判定保留 (±)*					6		1			0		7

平成18年2月は、茅ヶ崎・秦野・足柄上保健所から合計47件の検査依頼があり、茅ヶ崎保健所管内で陽性2件、判定保留6件、秦野保健所管内で判定保留1件が検出された。

* 「判定保留」とは、測定値が0.1～<0.35IU/ml (>0.35IU/mlが陽性)の場合を言い、QFT試薬説明書によると、感染の度合いを考慮し、総合的に判定するとなっています。結核研究所では、「疑陽性」と言う表現を使用していますが、当所では、試薬販売メーカーの意見および使用説明書の記載に従い、「判定保留」の表現を使用することにしました。

表5 ウイルス検出状況(月別) ー平成17年2月～平成18年2月

疾患名 検出ウイルス	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成17年計	1月	2月	平成18年累計
インフルエンザ AH1											6	6	19	19	38
インフルエンザ AH3	47	13									3	77	136	35	171
インフルエンザ B	75	9										105			
パラインフルエンザ 1													1	1	2
R S										1		1		1	1
ポリオ 3				1								1			
コクサッキー A4						1						1			
コクサッキー A5							1					1			
コクサッキー A6				2	9	11						22			
コクサッキー A9									1			1			
コクサッキー A10					1				1			2			
コクサッキー A16	1				4	4	2	4				15			
コクサッキー B3						1						1			
エコー 3					2	1						3			
エコー 6					2							2			
エンテロ 71				1		4	4			1		10			
パレコー 1									1			1			
ムンプス				5	10	2			2	1	1	21		1	1
アデノ 2	1			1	1	1						4		1	1
アデノ 3					1		1		1	1	1	8		2	2
アデノ 4		1										1		1	1
アデノ 5				1								1			
アデノ 40/41										2		2			
単純ヘルペス 1					1				2			4	1		1
ロ タ	1	12	1	12							1	27	1		1
ノ ロ	21	23	2	17	7				1	21	44	237	80	13	93
サ ポ				31								31			
未 同 定		1			1	2	2			1	2	9			
オリエンチア ツツガムシ									1	12		13			
合 計	146	59	3	71	39	27	10	4	10	40	58	607	238	74	312

表6 ウイルス検出状況(疾患別) ー平成18年2月

疾患名 検出ウイルス	ウエストナイル熱	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	除麻しんく(成人麻しんを)	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	食中毒	その他の	合計
取り扱い検査件数				2		1	12					72		22	1	110
インフルエンザ AH1												19				19
インフルエンザ AH3												35				35
インフルエンザ B																
パラインフルエンザ 1												1				1
R S												1				1
ムンプス												1				1
アデノ 2						1										1
アデノ 3												2				2
アデノ 4												1				1
ノロ							3							10		13

2月分コメント

○集団発生

- ・平成18年2月、県域で食中毒様胃腸炎の集団発生が3事例あり、患者便9検体中9検体からノロウイルスが検出された。
- ・感染性胃腸炎の集団発生は1事例あり、患者便および吐物3検体中1検体からノロウイルスが検出された。

○県域外発生関連調査

- ・他の自治体から依頼のあった食中毒様胃腸炎1事例の患者便1検体からノロウイルスが検出された。

○発生動向調査の病原体検査定点からの依頼によるもの

- ・インフルエンザ様疾患患者の咽頭(または鼻腔)拭い液72検体を検査したところ、インフルエンザウイルスA(H1)型18株、インフルエンザウイルスA(H3)型34株、アデノウイルス3型2株、アデノウイルス4型1株、ムンプスウイルス1株が分離された。アデノウイルスが分離された症例は、いずれも診断名としてインフルエンザとアデノウイルス感染症が併記されていた。また、ムンプスウイルスが分離された症例は、インフルエンザと流行性耳下腺炎の症状を呈し、同一検体からインフルエンザウイルスA(H3)型も重複分離されている。さらに、ウイルス分離陰性検体(17検体)のうち、1検体からインフルエンザウイルスA(H1)型、1検体からインフルエンザウイルスA(H3)型、1検体からパラインフルエンザウイルス1型、1検体からRSウイルスの遺伝子が検出された。

- ・咽頭結膜熱患者の咽頭拭い液1検体を検査したところ、アデノウイルス2型が分離された。
- ・感染性胃腸炎の患者便9検体を検査したところ、2検体からノロウイルスが検出された。

○県域保健所受付HIV抗体検査

- ・2月は、84件について検査したところ、すべて陰性であった。